

事務局報告

第33回(2006年度第4回)幹事会議事録

日時:2006年7月8日(土)14:00~17:00

場所:早稲田大学大隈会館

出席者:能城総括幹事・編集委員長, 大山庶務幹事, 高橋行事副委員長, 佐々木広報・渉外幹事, 紀藤編集副委員長 江口第21回大会実行委員, 鈴木第21回大会実行委員

1. 第24回談話会実施報告がされた。「石斧伐採実験のあとを訪ねる」6月10・11日, 東北大学川渡共同セミナーセンター, 講師:鈴木三男, 山田昌久, 磯部保衛, 参加者は29名。
2. 第14巻2号の刊行予定日, 第15巻1号の編集状況, 特別第2号の編集状況が報告された。特別第2号は, 第21回大会前に刊行する。
3. 第4回奨励賞の審査委員会を立ち上げ, 審査を開始する。
4. 科学技術振興機構(JST)による「植生史研究」の電子化および公開について検討した。検討した内容について, 評議員会および総会に諮ることになった。
5. 第26回談話会を2007年3月に日本生態学会第54回大会(松山市)での公募式シンポジウムとして開催すべく準備することとした。
6. 第27回談話会を2007年5月に岐阜県で開催すべく準備することとした。
7. 第21回大会実行委員に佐藤宏之氏を加えることとした。大会のプログラム, ポスター, 広報などについて審議を行った。

日本植生史学会第25回談話会

第25回談話会を2006年9月9・10日(土・日)の2日間, 総合地球環境学研究所において開催しました。参加者は13名でした。

テーマ:植生史解明のための室内実験法1. 微粒炭分析の基礎と方法

講師:小椋純一(京都精華大学)・井上 淳(大阪市立大学)

世話人:湯本貴和(総合地球環境学研究所)・大井信夫(ONP研究所)

場所:総合地球環境学研究所

第34回(2007年度第1回)幹事会議事要録

日時:2006年11月25日(土)9:00~10:30

場所:東京大学法文2号館

出席者:鈴木会長, 能城総括幹事・編集委員長, 大山庶務幹事, 朝川会計幹事, 佐々木広報・渉外幹事, 大井行事委員長, 高橋行事副委員長, 紀藤編集副委員長

1. 2007年度評議員会・総会での報告事項および審議事項を最終確認した。
2. 第15巻1号の編集状況および特別第2号の刊行が報告された。
3. 第25回談話会実施報告がされた。「植生史解明のための室内実験法1. 微粒炭分析の基礎と方法」9月9・10日, 総合地球環境学研究所, 講師:小椋純一, 井上 淳, 参加者は13名。
4. 第26回談話会の開催案を了承した。
5. 日本生態学会第54回大会(2007年3月)での公募シンポジウム開催が報告された。談話会に準じる扱いをして広報を行うことを了承した。
6. 第22回大会を2007年11月17・18日(予定)に, 大阪市立自然史博物館において開催すべく準備することとした。
7. 第4回奨励賞に会誌13巻2号掲載の井上淳氏の論文が推薦された。

2007年度評議員会議事要録

日時:2006年11月25日(土)11:00~12:30

場所:東京大学法文1号館

出席者:辻・西田・守田評議員, 鈴木会長, 能城総括幹事・編集委員長, 大山庶務幹事, 朝川会計幹事, 佐々木広報・渉外幹事, 大井行事委員長, 高橋行事副委員長, 谷川第21回大会実行委員長

1. 2006年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。
2. 2007年度事業計画の幹事会案を審議した。主な案件は以下の通りである。
 - 1) 名誉会員棚井敏雅氏の逝去について総会で報告することとした。
 - 2) 名誉会員の位置づけについて幹事会で検討することとした。
 - 3) 会則第6条の改正案について, 総会で審議することを承認した。
 - 4) 「植生史研究」のカラーページ掲載の経費負担について, 幹事会で検討し, 投稿規定に明記することとした。
 - 5) 科学技術振興機構(JST)による「植生史研究」の電子化について, 最新の3年間をパスワードによるアクセス制限期間とする幹事会案を審議し, 承認した。
 - 6) 学会出版物における著作権管理について, 学術著作権協会への加入も視野に入れ, 今後の方向性を検討することとした。
 - 7) 談話会の開催方法, 今後の大会の開催地について審

議した。特に、大会の開催地候補地として、九州や四国を視野に入れていくこととした。

8) 会費の長期滞納者に対し、督促を行うことを確認した。

9) 日本学術会議との関わりについて、他の学会との連携しながら、どのように働きかけを行うか検討することとした。

2007 年度総会議事要録

日時：2006 年 11 月 26 日 (日) 11:25 ～ 12:20

場所：東京大学法文 2 号館

議長：高原 光

1. 報告事項

1. 2006 年度事業報告

1-1. 庶務

1) 会員動向 (2006 年 9 月 30 日現在)：名誉会員 1 名、賛助会員 1 社、一般会員 357 名、学生会員 43 名、団体会員 6 団体 (前年度比：名誉-1, 賛助±0, 一般+4, 学生+3, 団体+1)。

2) 2006 年度評議員会を 2005 年 12 月 10 日、総会を 12 月 11 日、京都府立大学において開催した。

3) 会員名簿の編集を進めた。

1-2. 広報・渉外

1) ニュースレター 6 号・7 号・8 号を編集・刊行した。

2) ホームページの管理と更新を行なった。

1-3. 編集

1) 会誌「植生史研究」第 14 巻第 1 号・第 2 号を刊行した。

2) 会誌特別第 2 号「三内丸山遺跡の生態系史」を編集した。

1-4. 行事

1) 第 20 回大会を 2005 年 12 月 10・11 日、京都府立大学において開催した。

大会実行委員長：高原光。大会実行委員：湯本 貴和、大井信夫。参加者：138 人。

2) 第 24 回談話会を 2006 年 6 月 10・11 日、東北大学川渡共同セミナーセンターにおいて開催した。

テーマ：石斧伐採実験のあとを訪ねる。

案内者：鈴木三男、山田昌久、磯部保衛。参加者：27 人。

3) 第 25 回談話会を 2006 年 9 月 9・10 日、総合地球環境学研究所において開催した。

テーマ：植生史解明のための室内実験法 1. 微粒炭分析の基礎と方法。

講師：小椋純一、井上 淳。参加者：13 人。

4) 第 21 回大会を 2006 年 11 月 25・26 日東京大学において開催すべく準備した。

2. 会計

1) 2006 年度決算報告 (2005 年 10 月～2006 年 9 月)

		単位：円	
収 入		収入予算	
会費 (個人)	1,234,000	1,492,000	
会費 (団体, 賛助)	0 ^{*1}	51,000	
会誌売上	60,900	200,000	
特別号 (2) 売上げ	0 ^{*2}	1,200,000	
雑収入	1,071 ^{*3}	0	
寄付	0	0	
利息	36	0	
前年度繰越金	1,149,558	1,149,558	
収入合計	2,445,565	4,092,558	

		支出予算	
支 出		支出予算	
会誌印刷費	会誌編集印刷費 14(1)	362,250	420,000
	会誌編集印刷費 14(2)	378,000	420,000
	会誌編集印刷費 15(1)	0 ^{*2}	420,000
	特別号 (2) 編集印刷費	0 ^{*2}	997,500
会誌郵送費	会誌郵送費 14(1), (2)	56,800 ^{*4}	120,000
	バックナンバー		
大会準備金	大会準備金	200,000	100,000
名簿印刷費	2006 年度名簿印刷費	0 ^{*5}	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	109,570	120,000
	郵送補助 (人件費)	113,500 ^{*6}	80,000
事務経費	一般事務経費	79,687	50,000
	賞状等	3,000 ^{*7}	20,000
	幹事会等旅費	246,280	400,000
	封筒印刷費	84,000	150,000
	予備費	0	695,058
支出合計		1,633,087	4,092,558
次年度繰越金		812,478	

*1：団体会員への請求の遅れによる

*2：特別号 (2) および 15(1) は未刊

*3：6 月談話会の残金

*4：15(1) が刊行されなかったことによる

*5：名簿は未発行

*6：時給 1000 円、会誌、ニュース、ハガキ等の発送に関わる補助

*7：受賞者懇親会招待費

2) 会計監査報告

「日本植生史学会 2006 年度収支の諸帳簿、預金通帳及び諸書類などを厳正に監査しましたところ、適正に処理されておりましたので報告します。」

会計監査：叶内敦子 2006 年 11 月 17 日

3. 第 4 回奨励賞の推薦

日本植生史学会表彰規定 (2002 年 11 月 17 日制定、2004 年 11 月 28 日改訂) に則って、奨励賞審査委員会 (鈴木三男委員長、能城修一・大井信夫・紀藤典夫・百原新各委員) を設置し、審査を行なった。その結果、第 4 回奨励賞に以下の 1 件の論文を推薦することにした。

受賞論文：井上 淳・高原 光・千々和一豊・吉川周作「滋賀県曾根沼堆積物の微粒炭分析による約 17,000 年前以降の火事の歴史」、植生史研究 第 13 巻：47-54。

2. 審議事項

1. 規則改正

1) 会則第6条を改正する。

旧：第6条(会長) 本会に会長をおく。会長は本会を代表し、会務を統括する。会長は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。任期は2年とし、連続して3期務めることは出来ない。

新：第6条(会長) 本会に会長をおく。会長は本会を代表し、会務を統括する。会長は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。任期は2年とし、3期務めることは出来ない。

出席者58名中、賛成55名で、会則第11条に則り、改正案は承認された。

2. 2007年度事業計画

2-1. 庶務

1) 2007年度評議員会・総会を2006年11月25日(土)・26日(日)東京大学において開催する。

2) 会員名簿を編集・刊行する。

2-2. 広報・渉外

1) ニュースレターを編集・刊行する。

2) ホームページの管理と更新を行なう。

2-3. 編集

1) 会誌「植生史研究」第15巻第1号・第2号、第16巻第1号を編集・刊行する。

2-4. 行事

1) 第21回大会を2006年11月25日(土)・26日(日)東京大学において開催する。

大会実行委員長：谷川章雄。大会実行委員：佐藤宏之、樋泉岳二、江口誠一、鈴木伸哉、余語琢磨、高橋敦。

2) 第26回談話会を2007年5月12日(土)・13日(日)に、岐阜県大垣市において開催すべく準備する。

巡検：岐阜県大垣市上石津の里山と前期更新統東海層群多良累層の植物化石。

案内者：田端英雄，百原 新，大井信夫。

3) 第22回大会を2007年11月17日(土)・18日(日)(予定)に、大阪市立自然史博物館において開催すべく準備する。

公開シンポジウム：大阪湾周辺の植生史－100万年，10万年，1万年(仮題)。

大会実行委員長：塚腰 実。大会実行委員：佐久間大輔，南木睦彦，大井信夫。

共催：大阪市立自然史博物館。

2-5. 役員選挙

1) 第6期会長および評議員選挙を実施する。

3. 2007年度予算案(2006年10月～2007年9月)

単位：円

収 入		
会費		1,532,000 ^{*1}
団体・賛助会員会費		51,000 ^{*2}
会誌売上		100,000
特別号(2)売上		1,200,000
前年度繰越金		812,478
収入合計		3,695,478
支 出		
会誌印刷費	会誌印刷費 15(1)	380,000 ^{*3}
	会誌印刷費 15(2)	380,000
	会誌印刷費 16(1)	380,000
	特別号(2)印刷費	1,030,000
会誌郵送費	会誌郵送費 15(1)	30,000
	会誌郵送費 15(2)	30,000
	会誌郵送費 16(1)	30,000
	バックナンバー郵送費	5,000 ^{*4}
名簿印刷費	2007年度名簿印刷費	100,000
大会準備金	大会準備金	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	120,000
	選挙関連郵送費	30,000
	名簿郵送費	30,000
	郵送補助(人件費)	120,000 ^{*5}
事務経費	一般事務経費	80,000
	各賞状等	6,000 ^{*6}
	幹事会出席旅費	400,000 ^{*7}
	封筒印刷費	50,000
予備費	予備費	394,478
支出合計		3,695,478

*1：一般会員358名×4000円+学生会員50人×2000円、会員数は2006年10月30日現在。

*2：団体会員6団体×6000円、賛助会員1社×15000円。

*3：前年度実績から算出した金額。

*4：特別号は会員配布ではなく販売されるため郵送料は計上しない。

*5：時給1000円。

*6：賞状代、受賞者懇親会招待費。

*7：役員全員が東京に3回集まる交通費から算出。

賛成多数で承認された。

第4回奨励賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定、2004年11月28日改訂)に則って、奨励賞審査委員会(鈴木三男委員長、能城修一・大井信夫・紀藤典夫・百原新各委員)を設置し、審査を行なった。その結果、第4回奨励賞に以下の1件の論文を推薦することにした。

受賞論文：井上 淳・高原 光・千々和一豊・吉川周作「滋賀県曾根沼堆積物の微粒炭分析による約17,000年前以降の火事の歴史」、植生史研究 第13巻：47-54。

推薦理由(日本植生史学会奨励賞審査委員会委員長 鈴木三男)

本論文は、滋賀県曾根沼における約17,000年前以降の

堆積物の微粒炭を分析し、火災の歴史の概要を明らかにしたものである。本論文は、これまで花粉分析にともなって観察され議論されてきた小微粒炭だけではなく、より局地的な火事を反映すると考えられる大微粒炭をも抽出・解析し、さらに微粒炭の反射率から燃焼温度を推定するなど、微粒炭分析をより洗練させて、日本における火事の歴史を多角的に把握することを可能とした。それによって微粒炭分析が火事の歴史を明らかにする上で有効であること示し、日本の植生史解明に大きく貢献する一步を築いたと評価できる。また従来、分類群との関連でのみ議論されてきた植生史研究に、分類群を離れた視点から光をあて、植生史研究の裾野を広げた点でも評価できる。よって本論文を第4回奨励賞受賞論文として推薦する。

日本植生史学会第21回大会

2006年11月25・26日の2日間、東京大学において、第21回大会が開催された。詳細は以下の通りである。

会場：東京大学法文2号館

大会実行委員長：谷川章雄

実行委員：佐藤宏之、樋泉岳二、江口誠一、鈴木伸哉、余語琢磨、高橋敦

日程：11月25日（土）公開シンポジウム、奨励賞授賞式および講演、20周年祝賀会

11月26日（日）一般研究発表、ポスター発表、総会

公開シンポジウム「人類時代の植生史研究と考古植物学—旧石器から江戸へ—」（総合討論・司会：谷川章雄、樋泉岳二）

招待講演 大場秀章：植物学と植生史学

辻 誠一郎：日本の植生史と人の活動史—到達点・課題・展望—

鈴木三男：日本人と樹木、つきあいの歴史—考古植物学的アプローチ—

山田昌久：遺跡発見の植物と技術情報から見た人と森の関係史

一般研究発表（口頭発表）

福嶋徹・百原新：狭山丘陵の下部更新統上総層群谷ツ粘土層から発見された *Davidia* の内果皮化石

大井信夫・百原新・田端英雄：岐阜県上石津の東海層群でみられる前期更新世の花粉群の変遷

鈴木孝治・百原新・守田益宗・苅谷愛彦：オオシラビソを含む長野県北部岩岳湖成層の後期更新世約3万年前の古植生

鈴木茂・鈴木正章・遠藤邦彦・中村賢太郎・千葉崇：白老海岸平野の形成過程と植生変遷(1)

小椋純一：幕末から室町後期における京都の神社林の植生

小林真生子・百原新・清永丈太・岡崎浩子・柳澤清一・岡本東：館山市沖ノ島遺跡から出土した縄文時代早期のアサ種子

住田雅和：青森県富の沢遺跡出土のヒエ属炭化種子の形態変異

吉川純子・荒川隆史：縄文時代の炭化クリ種子を用いた果実サイズの復元

能城修一・佐々木由香：東京都東村山市下宅部遺跡の出土木材からみた関東地方の縄文時代後・晩期の木材資源利用

山田昌久：弥生時代における沖積平野居住者のスギ大径木利用構想

遠部慎・宮田佳樹・小林謙一・植田弥生：貝層堆積過程の復元—貝塚出土試料におけるコンタミネーション—

宮田佳樹・米田穰・住田雅和・遠部慎・小林謙一・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ・扇崎由：安定同位体を用いた弥生時代の食性研究

塚腰実・岡本素治：備北層群産ヒシ科化石とアスナロビソ属 (*Hemitrapa*) の比較研究

田中孝尚・山本俊哉・能城修一・鈴木三男：クリの分布変遷における人の関与を遺伝的構造から検証する

一般研究発表（ポスター発表）

百原新・大井信夫・田端英雄：岐阜県上石津の東海層群でみられる前期更新世の大型植物化石相の変遷

南澤修・松本みどり・百原新・山川千代美：古琵琶湖層群・更新統畑層の植物化石群集の解析

田中義文・高橋敦・井上勉：藤岡市南部の更新世末期の植物化石群集

鈴木茂・遠藤邦彦・大里重人・石綿しげ子・久保崇：千葉県館山市付近の植生変遷

北川陽一郎・吉川周作・高原光：大阪湾夢洲沖ボーリングの花粉分析に基づく過去約1万年間の植生変遷

中村琢磨・高原光：後氷期の八甲田山における A/F, P/A 比からみたオオシラビソ林の変遷

安昭炫・辻誠一郎・木村勝彦・箱崎真隆・中村俊夫・佐々木由香・辻圭子・森泰通・松井孝宗・河合仁志：愛知県、矢作川河床の埋没林

清永丈太：若齢コナラ林におけるコナラ花粉粒生産量

豊岡康広・高原光・竹原明秀・池田重人・檀原徹・Dirksen, O.・Klimin, M.：カムチャッカ半島内陸部における表層堆積物中の花粉組成と周辺植生の関係

井上淳：奈良県曾爾高原ススキ原の山焼きにおける炭の分布

大山幹成・米延仁志・半沢まどか・鈴木三男：秋田スギの年輪幅を用いた東北北部における古気候復元

金子野吾・大山幹成・鈴木三男：青森ヒバの年輪気候学的研究

野中理加・安昭炫・辻誠一郎・李弘鐘・庄田眞矢：韓国，葛梅里遺跡出土の3～4世紀の種実遺体群・花粉群と植物利用

小林加奈・磯部保衛：縄文時代の復元磨製石斧を使用した木材伐採実験—伐採後の石斧に残される痕跡から読み取れること—

佐々木由香：東京都下宅部遺跡における縄文時代の土器付着植物遺存体の種類とその用途

工藤雄一郎・佐々木由香・小林謙一・坂本稔・松崎浩之：東京都下宅部遺跡における遺構群の14C年代と縄文時代後半期の種実利用の変遷

西田治文：北海道産後期白亜紀のマンサク亜綱類似結実器官鈹化石の構造と類縁

吉川昌伸：縄文時代におけるウルシ花粉の産出状況

第35回（2007年度第2回）幹事会議事要録

日時：2007年2月3日（土）14:00～17:00

場所：千葉大学理学部3号棟607号室生物学セミナー室

出席者：鈴木会長，能城総括幹事・編集委員長，大山庶務幹事，朝川会計幹事，佐々木広報・渉外幹事，大井行事委員長，高橋行事副委員長

1. 第21回大会の報告が行われた。大会参加者は109名であった。
2. カラーページの投稿料を1ページにつき1万円とし，投稿規定を改訂することとした。
3. 学術著作権協会に関しては，加入の検討を続けることとした。
4. 会費長期滞納者に対し，早急に督促を行うこととした。
5. 会長選挙は，4月中旬公示，評議員選挙は7月上旬公示の予定で実施すべく準備することとした。選挙管理委員長は吉川昌伸氏に依頼する。
6. 次回選挙までに2007年度版名簿を発行することとした。
7. 第22回大会を2007年11月17・18日（予定）に，大阪市立自然史博物館において開催すべく準備することとした。

公開シンポジウム：大阪湾周辺の植生史—100万年，10万年，1万年（仮題）

大会実行委員長：塚腰 実。大会実行委員：佐久間大輔，南木陸彦，大井信夫

共催：大阪市立自然史博物館

8. 第26回談話会を2007年5月12・13日，岐阜県大垣市において開催すべく準備することとした。詳細については，次号ニュースレターに掲載することとした。

テーマ：「岐阜県大垣市上石津の里山と前期更新統東海

層群多良累層の植物化石」

案内者：田端英雄，百原 新，大井信夫

9. 特別第2号の販売状況が報告された。
10. 第15巻1号および2号の編集状況が報告された。

第36回（2007年度第3回）幹事会議事要録

日時：2007年4月7日（土）14:00～16:30

場所：千葉大学理学部3号棟607号室生物学セミナー室

出席者：能城総括幹事・編集委員長，大山庶務幹事，朝川会計幹事，佐々木広報・渉外幹事，大井行事委員長，高橋行事副委員長

1. 会長選挙を4月21日公示，5月21日投票締め切り，5月下旬開票の日程で実施することとした。選挙管理委員長は吉川昌伸氏に委嘱する。
2. 2007年度会員名簿を近日中に発行する。
3. 第22回大会を2007年11月17・18日（予定）に，大阪市立自然史博物館において開催すべく準備することとし，大会の計画について検討した。次回幹事会までにタイムスケジュールを決定する。

公開シンポジウム：大阪湾周辺の植生史—100万年，10万年，1万年（仮題）

大会実行委員長：塚腰 実。大会実行委員：佐久間大輔，南木陸彦，大井信夫

共催：大阪市立自然史博物館

4. 2007年5月12・13日，岐阜県大垣市において開催予定の第26回談話会の申し込み状況について報告があった。

テーマ：「岐阜県大垣市上石津の里山と前期更新統東海層群多良累層の植物化石」

案内者：田端英雄，百原 新，大井信夫

5. 第27回談話会の開催案を検討した。
6. 第15巻1号および2号の編集状況が報告された。引き続き会員の投稿を促すこととした。
7. 会費長期滞納者に対し，再度督促を行うとともに，会誌の発送を停止する。
8. 学術著作権協会に関しては，加入の検討を続けることとした。
9. プライバシーポリシーの策定について検討を開始することとした。
10. 会員に対する学会関連情報のメール配信について検討することとした。

日本植生史学会第26回談話会

第26回談話会を2007年5月12・13日（土・日），岐阜県大垣市において開催した。参加者は11名でした。

テーマ：「岐阜県大垣市上石津の里山と前期更新統東海層

群多良累層の植物化石」
 案内者：田端英雄（(有) 応用里山研究所），百原 新（千葉大学園芸学部），大井信夫（ONP 研究所）
 場所：岐阜県大垣市上石津町

日本植生史学会第 6 期会長選挙報告

表記選挙開票を 2007 年 5 月 28 日（月）午後 2 時より東北大学植物園にて行った。開票には吉川昌伸選挙管理委員長，大山庶務幹事，立会人 2 名（田中孝尚，小川とみ）の立ち会いのもと行われた。郵送数総計は 114 通で，その結果は以下の通りでした（敬称略）。
 会長：南木睦彦（47 票），（次点）能城修一（17 票）（投票総数 114 票，内無効票 2 票）

日本植生史学会第 22 回大会（第 2 報）

第 22 回大会を 2007 年 11 月 17 日（土）・18 日（日）に，大阪市立自然史博物館において開催します。

日時：11 月 17 日（土）13:00～公開シンポジウム，励賞・学会賞授与式および記念講演，懇親会
 11 月 18 日（日）9:30～16:00 一般研究発表（口頭・ポスター，総会）

会場：大阪市立自然史博物館，
 共催：大阪市立自然史博物館・大阪市立長居植物園（予定）
 実行委員会：塚腰 実（大阪市立自然史博物館，委員長），佐久間大輔（大阪市立自然史博物館），南木睦彦（流通科学大学），大井信夫（ONP 研究所）

公開シンポジウム：「100 万年，10 万年，1 万年スケールで見た大阪湾周辺の植生と環境の移り変わり」

シンポジウム趣旨：大阪湾周辺は鮮新世から更新世にわたって多くの植物化石が産出している大阪層群の堆積域で，日本の鮮新-更新世の植物相変遷史において標準となる地域である。また，琵琶湖，神吉盆地，深泥池など 10 万年以上の歴史を持つ湖沼や堆積盆があり，連続的な堆積物の花粉分析が行われている。さらに，1 万年前以降には沖積平野が発達したため数多くの遺跡が分布し，発掘調査にともなって木材，種実，花粉，植物珪酸体などの植物化石の研究が行われている。したがって，大阪湾周辺は植生・植物相と環境の変遷史を同じ地域で異なる時間スケールからみるのに適した地域だと言える。時間スケールの違いによって，扱う空間スケールや焦点となる検討課題は異なってくるが，スケールは連続的であり，異なるスケールからの視点によって新たな展開も見えてくることが期待できる。

話題提供：大井信夫（ONP 研究所），林 竜馬（京都府立大学），辻本裕也（パリノ・サーヴェイ株式会社）

申込締切：大会参加・懇親会参加 10 月 29 日，一般研究発表 9 月 30 日，講演要旨 10 月 14 日
 申込方法などの詳細は 9 月初旬にご案内いたします。

会員動向（2006 年 4 月～2007 年 4 月）

新入会員

Mechtild Mertz（一般）

The Research Center on Chinese, Japanese and Tibetan civilisations

山崎 純男（一般）

福岡市教育委員会

岡村 道雄（一般）

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

宮田 佳樹（一般）

国立歴史民俗博物館

須田 大樹（一般）

埼玉県立自然の博物館

扇崎 由（一般）

岡山市埋蔵文化財センター

佐竹 昭（一般）

広島大学総合科学研究科

大下 明（一般）

雲雀丘学園中高等学校

森 恭一（一般）

財団法人千葉県教育振興財団文化財センター保存科学室

杉本 善彦（一般）

網本 逸雄（一般）

歴史地理学会

菊地 淑人（学生）

東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

鈴木 孝治（学生）

千葉大学大学院自然科学研究科

三浦 恵 (学生)
早稲田大学第一文学部考古学専修

内田 和典 (学生)
首都大学東京大学院人文科学研究科文化基礎論

安 昭炫 (学生)
東京大学大学院新領域創成科学研究科

小林 克也 (学生)
東北芸術工科大学大学院芸術工学部芸術文化専攻歴史文化研究領域

一木 絵理 (学生)
東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

前田 亜希 (学生)
東京大学新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

小林 加奈 (学生)
首都大学東京大学院人文科学研究科

渋谷 綾子 (学生)
総合研究大学院大学文化科学研究科

國學院大學考古学研究室 (団体)

異動会員
佐々木尚子 (学生) → (一般)

退会会員
齊藤昌宏, 菅野宗武, 坂上寛一, 景守紀子, 川瀬基弘, 小林 淳, 清水登美子, 藤岡孝夫, 堤 隆

第5期日本植生史学会役員

(任期: 2005年10月1日~2008年度大会)

会 長: 鈴木三男

評議員: 辻誠一郎, 西田治文, 南木睦彦, 守田益宗

幹 事: 能城修一 (総括), 大山幹成 (庶務), 朝川毅守 (会計), 佐々木由香 (広報・渉外)

編集委員会: 能城修一 (委員長), 紀藤典夫 (副委員長)

行事委員会: 大井信夫 (委員長), 高橋 敦 (副委員長)